

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801037		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム康寿苑		
所在地	熊本県上益城郡嘉島町上六嘉 2 2 6 8		
自己評価作成日	平成 23 年 2 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成 23 年 4 月 19 日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	go/ApplicationServlet?ACTIONTYPE=ViewDetailAction&J1GYOCODE=43
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成23年 2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手足の守り神として有名な足手荒神のすぐ隣に位置し、小学校や住宅地のなかにあり、自然豊かな中で大変恵まれた環境にあります。「小規模多機能型事業所かしませマイル」との併設施設で交流も盛んに行っております。また敷地内にある地域の縁がわ「どぎゃんね」も多くの住民の方に利用していただき、その利用者の方とも交流をしています。協力病院も近隣にあり、医療面や緊急時の協力体制も整っており利用者、家族、スタッフの安心に繋がっています。食事はその日の入居者の好みに合わせ、スタッフが調理しており「おいしい」と喜んでいただいています。地域密着型事業所として、今後も地域との交流を密に行い、地域と共に一人ひとりの生活を支えあう関係作りに努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は普段の生活、小学生が登下校したり、住民や参拝者が頻繁に行き交う足手荒神の隣りに位置しています。同じ敷地内には、法人が運営する集会所「どぎゃんね」を地域の方々に開放しています。日常から事業所と地域住民との交流が活発に行われ、入居者と馴染みの人との交流の窓口にもなっています。またもう一つの特徴として、職員の提案を大事にしている事です。提案を行った職員には、報奨制度も整えており、職員の声に耳を傾け、活かしていく事で、働く意欲の向上につなげていくことを目指しています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで考えた理念を朝礼時に唱和し、共有・実践につなげている。	毎日、朝礼時に唱和し、理念の再確認を行い、実践につなげようとしている。またミーティングや3ヶ月に1回行う振り返りでは、全職員が参加し、職員同士の実践の達成度を確認する場としている。	職員の中には自ら考え、いろいろな試みを行っている方がおられます。今後は、より多くの方が現状に満足せず、研鑽を積まれることを望みます。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の呼びかけや参加、特に餅つき行事には毎年100名を超える参加がある。	事業所は地域の一員として、町内会に入会し、清掃活動等を通じて地域との交流に取り組んでいる。また、隣りに地域住民に開放された集会所「どぎゃんね」を運営しており、子育てサークルや町内会の集まり等が日常的に行われ、事業所との交流の窓口となっている。	町内会に入会しており、事業所からの情報発信に回覧板の利用を相談してもらいたいと思います。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修等に講師として出向き知識や経験等発表している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を行いその場において状況の報告を行っている。議事録は玄関に置きいつでも閲覧できるよう説明している。	2ヶ月に1回行われており、参加メンバーは老人会長、民生委員、社協の職員、家族等である。内容としては、利用者やサービスの実際についての報告を行い、参加者からの貴重な意見をいただく場としている。また、緊急時や災害時の協力体制についてもお願いしている。	今後、より一層活発な会議になるよう取り組んで欲しいと思います。タイムリーな話題や防災、認知症サポーターの研修などを会議の中に取り入れて欲しいと思います。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者はケアプランの指導や報告、相談等できる関係作りができています。	現在、入退院時の報告・相談などで、役場の窓口となっている保健師さんとの関係は密接で、いろいろなアドバイスも受けている。	運営推進会議のメンバーである社協との関係作りにも注力して欲しいと思います。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒のリスクが高い方には家族に説明し、理解をいただき、身体拘束以外の方法を考えている。	身体拘束についてのマニュアルを整備している。また年1回は勉強会を行い、理解を深め、実践に取り組んでいる。玄関の施錠については防犯上の観点から夜間のみ行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて学び全スタッフが当たり前のこととして、防止の徹底に勤め、ストレスの少ない環境作りに努めている。		

事業所名:グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の相談や助言等を聞くことができるような関係作りをしている。日頃のケースを通し理解してきている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明を行っている。不安や疑問には十分対応して納得していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のコミュニケーションや面会時、家族会等で意見を運営推進会議で改善状況等を報告し運営に反映させている。	玄関ホールに第三者苦情処理機関のポスターを掲示している。また、日頃からコミュニケーションや面会時には出来るだけ意見の言いやすい雰囲気作り心掛けている。また家族会ではアンケートによる意見の収集にも努めている。貴重な意見は運営に反映させるようにしている。	利用者家族はなかなか本音を言いにくいということを肝に銘じて、日々研鑽に励んで欲しいと思います。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からのコミュニケーションを大事にし話しやすい雰囲気作りを心がけている。日々提案を出してもらうよう取り組んでいる。	事業所では、コミュニケーションの大切さを痛感しており、その雰囲気作りと提案制度を大事にしている。月に1回、意見や提案を出すよう機会を設けており、提案に対する報奨制度も整えている。	代表者や管理者は、職員の声に耳を傾けて活かしていけば、働く意欲の向上につながると思います。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者で年2回面談を行い、良い点・悪い点を話、目標を明確にし、給与等に反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の目標を明確にし、その為の外部研修等、周知をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所での研修や、同郡内の研修会に定期的に参加し、相談や、情報の交換できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態だけではなく、家族やできる限りの関係者からも聞き取りをする等情報の収集に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に見学をしていただいたり、経験あるスタッフが話しを聞く等して、できる限りの不安を解消するよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、グループホームだけではなく、法人全体でその方に合った支援を考えている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に相手の立場に立って想いを汲み取り、対話を大事にして寄り添った関係作りを心がけている。また、献立を話し合ったり、料理の手伝いをしていただいたり、協力しながら生活を送っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を詳細に話し、絆の大切さを伝えている。衣替えや行事への参加等気軽に来ていただけるような、雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人会や近隣の方に呼びかけ来苑していただき話をしてもらおう等、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。また、母体のデイとの交流も大きな繋がりになっている。	母体となっている特養でデイサービスが行われており、利用者の知人や馴染みの方が利用されている。そこを利用して、つながりが途切れないような支援に力を入れている。また家族も協力的で、墓参りや法事、美容院など関係継続のために前向きに取り組んでもらっている。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの位置や、休憩時の座席等配慮しながら利用者同士の関係作りに努めている。		

事業所名: グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても本人、家族の相談、フォローをおこない、本人、家族の想いを大事にして次のサービスに繋がるよ支援をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活を重視し、できる限りの把握に努めている。一人ひとりの想いを汲み取るようつとめている。	できる限り、今までの生活が続けられるように本人はもとより、家族・老人会々員、知人また昔話等の中から情報を収集し、本人の思いを汲み取るように取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、その関係者から情報を収集し、少しでも把握できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴や性格等も考慮した上で、一日の過ごし方の支援に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望が活かせるように、日頃の生活を把握しておき、本人主体の計画になるよう、勉強しながら作成している。	本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について、全職員で意見を出し合い、あくまでも本人主体の計画になるよう作成している。また必要に応じて、主治医や看護師との連携も取っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録の記入、朝礼での申し送りを徹底していると共に、月1回のケアミーティングにおいて状態の変化等共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて法人内の他部署と連携し、本当に必要なサービス提供ができるよう努めている。		

事業所名: グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の縁がわで行っている教室に入居者も参加する等して、教えたり教わったりと役割を持っている。また、昔から馴染みのある足手荒神への参拝も大きな安定に繋がっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との報告・連絡・相談も密にできており、早めの対応ができています。	基本的には、かかりつけ医受診は家族の対応となっている。近くに協力医があり、夜間の住診も可能なので、同意の上で協力医をかかりつけにされている利用者も多いようである。また、対応が早いので、家族も安心されているとの事です。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とも相談しやすい関係作りが築けており、適切な受診に繋がっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から担当医・看護師との連携を図り、関係作りを努め、常に情報収集や相談を行うことで利用者や家族が安心して入院生活を送り、退院後もスムーズに受け入れができるよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族と日頃よりケアについて十分に話し合い、できる限りの対応を行っていきたい。	現在、看取りは行っていない。日頃から本人や家族と十分に話し合うようにしている。また重度化した場合の対応としては、救急搬送などの対応を考えている。	今後、終末期の取り組みについても喫緊の課題として捉え、機会あるごとに勉強会を行って欲しいと思います。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会において、救急法の訓練を実施している。応急手当においても指導を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の参加を消防団・消化器業者も交えた訓練を10月に行った。風水害の災害には、屋根の大掃除など、日頃から細かいところまで気配りするように話し合った。	昨年の10月には、消防団、消火器業者指導のもと、地域住民にも参加を求め、訓練を行っている。また地域住民からは、緊急の場合に備えて、外部に援助を求める設備の取り付けの提案も行われている。	現在非常時に備えて、水の備蓄は行っているが、その他の必需品についても考えて欲しいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼称については、入居時に本人と家族に必ず確認している。家族会においても意見を聞き、それぞれに合った呼称で対応している。また、プライバシーの確保についても、排泄や入浴時の声かけ等十分に配慮するよう研修会等を通じ意識を高めている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に関する勉強会は2ヶ月に1回、法人全体として行っている。また個人情報の取り扱いについて家族に説明し、同意書を取り交わしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「利用者本位」を尊重し、一人ひとりに合わせたケアを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合った時間の過ごし方を心がけ、臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力してもらい、近くの美容室で好みの髪型にしたりと、気持ちを尊重したケアを心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビは点いていても、それについての話題などコミュニケーションを大切にしている。 お好きな物・何を食べたいか？季節の物など好みを活かしたメニューに気配りしている。	高齢の方が多くこともあり、調理への参加は難しくなって来ている。そのかわり、好きな物や季節の物、また要望を積極的に取り入れることによって、食事が楽しみなものになるような支援に心掛けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状態や食事量・形態に合わせ提供し、必要に応じて水分量の把握と確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアの支援ができています。		

事業所名: グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。夜間も転倒リスク、その他を考慮して付き添う・Pトイレ使用など、オムツ種類を工夫し、コストダウンにつなげ、自立支援を行っている。排泄パターンを把握した支援を行っている。毎月のミーティングで職員は話し合い、統一したケアで家族の協力のもと、布パンツ・紙パンツ・オムツの使い分けで気持ちよい排泄ケアに努め、自立につなげている。	トイレでの排泄を基本としている。一人ひとりの排泄パターンを把握するために、水分摂取表や排泄表を作成している。また細かい動作や行動からも特徴をつかみ、自分で出来ることは見守りに徹し、自立につなげている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水・牛乳・ヨーグルト・野菜ジュース・1日の水分摂取1500cc目標にし、自然排便に力を入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常に1人対1人での対応をしている。体調を見て希望を聞いて、その都度対応し、入浴剤や夏場の水遊び、足浴など行っている。	回数は2日に1回を目安にしている。緊急な場合や必要な場合は、その都度対応するようにしている。時間帯は午後2時から4時30分位を予定している。入浴が楽しみなものになるよう無理強いせず、入浴剤等で温泉気分を味わってもらうよう工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じて日中でも「昼寝」をしていただく方もいる。夜間の不眠時においては、スタッフが寄り添うなど安心できるような心がけている。照明や環境への配慮もしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診に同行し、医師の説明の共有や処方箋にて常に確認できるようにしている。状態の変化についても、病院と連携を図り対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で役割を持っていただくよう支援を行っている。また、小規模と合同で行事等を行い、気分転換に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	足手荒神への参加や散歩に出かけている。また、買い物にも出かけ気分転換に努めている。	日常的な外出支援としては、隣接する足手荒神や散歩に出かけている。また、年間計画表を作成しており、コスモス見学や買い物など、気分転換に努めている。	

事業所名: グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所での管理ではあるが、必要な時にすぐお渡しできる環境である。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の電話や手紙の送付等、自由にできるよう支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的、親しみのある空間作りに心がけ、ソファには手作りのクッションなどで寛いで頂いている。テレビの音量にも気を配っている。	入居者が集う居間や食堂は、自然の光を最大限に取り入れられるような設計になっており、温かく居心地の良い空間となっている。またソファには職員手作りのクッションなどを配置し、季節の花も飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、お好みの居場所を確保しており、また、居室にも自由に行き来をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、なるべく使い慣れた家具・布団などの持ち込みをお願いしている。家族・お知り合いの面会時は、居室で寛がれるよう居室の整理・整頓にも気を使っている。	居室には使い慣れた家具や調度品を持ち込み、壁面には家族の写真などを貼り、居心地よく過ごせるよう支援している。中には仏壇もあり、毎朝お参りから始まる入居者もおられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはそれぞれネームプレートを掲示することにより、見ながら自室を判断していただいたり、また、廊下やトイレ・浴室等必要な箇所には手すりを設置し、できるだけ自立支援に努めている。		